

## ■ 米・日株価やドルの一旦調整は「買い」！？

前回更新分の執筆から1週間…。英下院総選挙においては与党・保守党が歴史的な勝利を収めることとなり、米中間の貿易協議は第1段階での合意に至る運びとなった。

其々の結果を受け、とりあえず市場はリスクオンのムードに包まれることとなったが、同時に当座の材料は「出尽くした」との感もあり、早くも市場にはクリスマス・モードに突入したかのような静けさが全体に漂っている。もちろん、もともと米・日の株価には目先の調整局面を迎えるタイミングが近づいてきていた。米国のNYダウ平均は、一昨日(17日)まで連日のように取引時間中の史上最高値を更新し続けていたし、日経平均株価も先週13日に一気に2万4000円台に乗せてからは高止まりの状態を続けていた。

あくまで「第1段階」とはいえ、米中協議が合意に至るというのであるから一定レベルまでの株高に違和感はないが、事前に期待だけで引き上げられた部分も大きく、ここは少しくールダウンも必要だろう。ただ、個人的に調整局面での押し目は買いのチャンスと見る。

そもそも、ジョンソン英首相率いる保守党が大勝したからといって、それで「合意なき離脱」の可能性が完全に封印されたわけではない。ここにきて英首相はEU離脱の移行期間である2020年末の延長を回避する法改正を目指すと言っており、そこには「合意なき離脱」の可能性が潜む。今後、EUは英国との自由貿易協定(FTA)など将来関係の交渉方針の取りまとめを急ぐが、その行方は難航必至である。むしろ、足下で低迷する英景気がそう簡単に持ち直すことになるとも思えない。

結果的に、ポンド/ドルは先週13日に総選挙(出口調査)の結果が見えた時点で1.3514ドルの直近高値をつけ、その後は調整ムードを色濃くしている。前回更新分の本欄において「足下では思惑的なポンド買いが一層強まっているものの、念のため自分の『出口』は確保して、その扉の近くでパーティーを楽しみたい」と述べたが、やはりそうしておいて賢明だった。

下図でも確認できるように、ポンド/ドルは一目均衡表の遅行線(週足)が週足「雲」上限に跳ね返されるような格好となり、結果として直近高値水準で上げ渋ることとなった。この遅行線と週足「雲」および週足ロウソクとの相互関係が要所・要所でモノを言うこととなった事例は過去にも数多くある。なお、現在は上向きで推移する62週移動平均線と31週移動平均線が下向きに転じる可能性もあり、その点は注視しておきたい。



また、ここにきて各種の米経済指標が強めの結果となることが多い点も見逃せない。ことに米住宅市場の伸びが総じて大きく、基本的にドルの強みは増している。

米下院本会議が昨日(18日)、トランプ米大統領を「権力乱用」で弾劾する決議案を可決したことで、目先はドルを買い仕掛けにくい

ムードもないではない。とはいえ、共和党が過半を占める上院での弾劾裁判で「罷免」に必要な3分の2以上の賛成を得ることは難しいと見られ、市場もそれは十分に承知している。

むしろ、弾劾にかけられたことで次期大統領選の勝利から一歩後退したトランプ氏が、これまで以上に強く景気刺激策の実施をアピールし始める可能性もあり、それはジワジワとドルの底値を固める役割を果たして行くと見る。

(12月19日 11:10)